

式 辞（令和7年度入学生への校長メッセージ）

アルプスの白い峰々とキャンパスの咲き始めた桜が、青空に映え、希望に満ちた春になりました。

本日ここに、37名の新入生を迎え、ご来賓の皆様や関係各位のご臨席を賜り、入学式を挙行できますことは、長野県南信工科短期大学の大きな慶びでございます。

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。教職員を代表してお祝い申し上げます。保護者の皆様にも、重ねてお慶びを申し上げます。

先ほど、専門課程の機械システム学科10名、電気システム学科18名、短期課程の機械科9名の入学を許可いたしました。教職員一同大いに歓迎いたします。

また、来賓・保護者の皆様におかれましては、ご多用中のところご臨席を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

長野県南信工科短期大学は、厚生労働省系の県立短期大学校として、平成28年（2016年）4月に、地域の皆様の多大なるご支援と、大きな期待の下に、開校し、今年で十年度目を迎えることができました。

本校設置の目的は、将来の「ものづくり産業」を担う「地域中核人材」の育成です。本校では、急速に進展する技術革新（イノベーション）にも柔軟に対応できる専門知識と技術・技能を兼ね備え、地域のリーダーとして積極的に活躍する実践技術者「ものづくりのスペシャリスト」を育成しています。

本校のカリキュラムの特色は、「少人数教育」と「実験・実習」にあります。少人数教育により、基礎理論の習得から先端機器を活用した実験・実習を通じて、専門知識と技術・技能を学びます。学生の皆さんの確かな技術者としての実力は、このカリキュラムをじっくりこなしてゆくことにより徐々に蓄えられてゆきます。

まず、専門課程に入学する皆さん、皆さんは、開校10年目に入学した第10期生です。

入学した1年次には、「一般教育科目」から始まり、「基礎講義」と「基礎実技」を受講します。後期からは、両学科をまたがってグループを構成し、一緒に課題を研究・解決する「総合課題」があります。

2年次には「専攻講義」があり、より深い専門知識を学び、その知識を基に「専攻実技」では、実験・実習を受講します。最後に、2年間の集大成として「卒業研究」に取り掛かります。

本校では2年間、月曜の1時限目から金曜の4時限目までびっしりと必修授業が詰まっています。これらに加えて、工学の理解に不可欠な基礎的な座学の「選択科目」もオンデマンド授業として用意されています。これらの充実した授業を通して、「ものづくりのスペシャリスト」としての確かな実践力を磨いてください。

次に、短期課程へ入学される皆さん、皆さんは、開校10年目の前期に入学した、第19期生です。「機械科」では、伝統的な金属加工器具から最新のデジタル機器を操作する技術・技能を習得します。

皆さんは、「普通学科」、「基礎学科」と「専攻学科」の座学の授業により得た、機械工学の知識と、「基礎実技」および「専攻実技」の実習授業で、より高度な技術と技能を身につけます。

半年間の短期間ではありますが、「ものづくりのスペシャリスト」としてのスキルアップにつながるものと期待しています。

さて、昨今では、生成AI、IoT、協働ロボットなどのいわゆるDX技術が生産現場にも急速に取り入れられてきました。「ものづくり」の将来の姿さえも変えてゆこうとしています。「技術者」を目指して本校に入学された皆さんは、その真ただ中にいます。

本校ではデジタルイノベーションを支える先端教育だけではなく、基礎知識さらに実践的な技術・技能の取得にむけた教育を実施しています。複合的な知識・技能を身に付けた技術者は、このような変革の時代にも正しい方向性を持って、柔軟に対応できるものと信じております。

このような新しい技術革新の時代に、「皆さんが目指す技術者とは、そして、技術者にとって最も大切なこと」は、何でしょうか。

いつも「技術者にとって最も大切なことは何か」を、問い質しながら学業に励んでください。必ずやその姿勢がこれから待ち受けている様々な課題に正しく対応できる力となります。

南信地域の豊かな自然に恵まれ、ものづくり産業の高い技術を培った「上伊那の地」で、ともに学び、科学技術の確かな実力を身に付けた、「ものづくりのスペシャリスト」を目指してください。

そして何よりも、本校で、「思い出に残る楽しい学生生活」を過ごされることを、心より願い、私からの式辞といたします。

令和7年（2025年）4月10日

長野県南信工科短期大学校長

武田 三男